AWARD

Since 1968

公益財団法人 日本プロスポーツ協会

2025
会報誌［アワード］
vol.4

©月刊陸上競技

スペシャル対談

北口榛花［やり投］ × 藤波朱理［女子レスリング］

パリ五輪 卓球日本代表 早田ひな選手 × 朝鮮代表選手

～2024年パリ五輪で激闘を繰り広げたあの一戦を振り返る～

人を幸せにする技術だけで、
この星も幸せにできるだろうか。

森も、海も、風も、人も、
同じ空の下で生きている。つながっている。

私たちのイノベーションは、
人と地球、そのどちらも明るく照らすためにある。

みーんなが幸せじゃなきゃ。

挑む。
人と地球のために。

NTT 公式
ホームページ

NTT

AWARD
会報誌［アワード］vol.4

Contents

公益財団法人 日本プロスポーツ協会の概要 …… 04
会長挨拶 麻生 太郎 …… 05
内閣総理大臣杯日本プロスポーツ大賞 選考要項 …… 06
歴代日本プロスポーツ大賞 授与式 …… 07
歴代大賞受賞者 …… 08
歴代殊勲賞受賞者 …… 11
第54回 日本プロスポーツ大賞授与式
内閣総理大臣杯 大賞 …… 13
殊勲賞・NHK賞授与式 …… 15
殊勲賞・特別賞・最高新人賞 …… 17
敢闘賞・功労賞・新人賞 …… 21
スポーツ功労賞 / 文部科学大臣顕彰 …… 21
スペシャル対談
やり投 北口榛花 × 女子レスリング 藤波朱理 …… 22
インタビュー 女子卓球 早田ひな × 卓球混合ダブルス 朝鮮代表 …… 28
歴代大賞受賞者 Part 4：1982~1985
日本プロスポーツ大賞の歴史 …… 33

公益財団法人日本プロスポーツ協会会報誌AWARD
発行日：2025年 6月6日
発行元：公益財団法人日本プロスポーツ協会
THE JAPAN PROFESSIONAL SPORTS ASSOCIATION（略称 J.P.S.A）
発行人：秋山 政徳
編集人：倉田 勝彦

● 所 在 地：東京都千代田区麹町1-3-23　麹町1丁目3番地ビル9階
● 電話番号：03-6272-4102
● FAX番号：03-6272-4889
● URL：http://jpsa.jp
● E.Mail：info@jpsa.jp

JPSA

日本プロスポーツ協会では、SDGs（持続可能な開発目標）17項目のうち、8つの目標に尽力、貢献しております。
スポーツによってSDGs　の目標達成に貢献するため2018年12月に定められた「Sports for Climate Action Framework」は、気候変動問題に対する枠組みです。
IOC、FIFA、東京2020組織委員会などの団体が署名し、スポーツによってSDGs　の目標達成を目指す世界的な活動として注目されており、本協会もその取り組みに協力しています。
また、本会報誌 "AWARD" においても環境へ配慮した資材調達などから持続可能な社会の実現に貢献しております。

FSC www.fsc.org ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C020887

このラベルは、国際基準を満たす「適切な森林管理」をされた認証林からの木材やその他、リスクの低い原材料から作られた製品につけられるマークです。
Forest Stewardship Council®（FSC®：森林管理協議会）は、責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする国際的な非営利団体です。

公益財団法人日本プロスポーツ協会の概要

設立沿革

本法人は、我国におけるプロスポーツ界の健全な発展と社会貢献及び国民のプロスポーツへの関心を高める目的として、1968年に日本プロスポーツ会議として発足しました。その後1990年に財団法人化を行い、2014年4月に公益財団法人に認定され、設立より52年間の歴史を有しています。主な事業活動として、「内閣総理大臣杯日本プロスポーツ大賞」「功労者文部大臣顕彰（文科省）」、そして「NHK杯（日本放送協会）」等、表彰・国家顕彰の授与式を主催してまいりました。

目 的

プロスポーツの水準の向上と発展を図ることにより、国民の余暇活動の充実に資するとともに、プロスポーツ選手の社会的地位の向上を図り、並びに国民のスポーツへの関心を高め、もって我が国のスポーツの発展に寄与する。

事業内容

- プロスポーツの振興発展のための調査研究
- プロスポーツの進行に功績のあった者に対する表彰
- プロスポーツに関する内外情報の収集、提供及び出版物の刊行、その他の広報
- プロスポーツに関する国際交流の推進
- プロスポーツに関する講習会および研修会の開催

日本プロスポーツ会議及び日本プロスポーツ協会 歴代会長

初代
八田 一朗

2代目
椎名 悦三郎

3代目
中曽根 康弘

4代目
櫻内 義雄

5代目
柳川 覚治

6代目
森 喜朗

7代目
島村 宜伸

会長挨拶

公益財団法人 日本プロスポーツ協会
会長
麻生 太郎

平素より、プロスポーツ関係者の皆様におかれましては、本協会に対し、格別なるご支援・ご協力をいただいておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。

1月末に開催された第54回日本プロスポーツ大賞授与式典では、2024年に活躍されたアスリートの皆さまを迎え、盛大に執り行われました。

昨年はパリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会がありましたが、ここまで様々な選手の皆さまがご出席の上、受賞されるのも、国内最高峰の式典である日本プロスポーツ大賞の魅力ではないでしょうか。ご臨席いただいた皆さまにも改めて御礼申し上げます。

この授与式典では、その年に活躍した選手や、永くスポーツの発展に貢献した選手・関係者の皆さまを讃え、社会に公表することで、選手本人の栄誉と修養に寄与してきていると考えております。

2025年、アスリートの皆さまが活躍され、どのような驚きと感動を与えてくれるのか、楽しみです。

本協会の運営に関わる諸官庁、内閣府、文科省および経済界、スポーツ界の皆様におかれましては、倍旧のご指導ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

スポーツが持つ力は無限大です。本協会の活動がその発展の一角を担うことができるよう、全力で取り組んでまいります。

今後もこの炎を途絶えさせることなく、最善を尽くして参ります。

日本プロスポーツ大賞とは

我が国のプロスポーツ界の健全な発展ならびに振興に寄与することを目的として、
1968年（昭和43年）の第1回日本プロスポーツ大賞より毎年開催されています。
大賞受賞者には、国家的表彰として内閣総理大臣杯と賞状が授与されます。

選考基準

日本プロスポーツ大賞・殊勲賞

スポーツ報道をする東京運動記者クラブ加盟のテレビ、ラジオ19社及び新聞、通信社35社のスポーツ記者の責任者で構成される選考委員の投票に基づき、選考委員代表者立会いのもと選考後、理事会の承認を得て決定する。

特別賞

選考委員、各加盟団体及びスポーツに関する有識者の推薦を基に、理事会の審議を得て、決定する。

功労賞・新人賞

選考委員、各加盟団体及びスポーツに関する有識者の推薦を基に、理事会の審議を得て、決定する。

最高新人賞

最高新人賞選考委員（大賞、殊勲賞の選考委員と同メンバー）による投票結果を基に、理事会の承認を得て決定する。なお、同点得票の場合は、選考委員代表者および理事会メンバーで決定する。

特記事項

大賞、殊勲賞、最高新人賞は、本人に授賞の意志または授賞式に出席の意志がない場合は、当選を無効とし次点の者に繰り上げられる。特別賞、功労賞、新人賞も上記に準じて無効となる。但し、客観的な理由があり、やむを得ず欠席する場合は、Web参加若しくは、ビデオメッセージにより、代理人による授賞が認められる。

選考方法

日本プロスポーツ大賞（1名）

当該年度において、プロスポーツ界全般（日本プロスポーツ協会の加盟団体か否かは問わない）を通じて、国籍を問わず、あらゆる意味で、最も貢献度の大きい業績を残したと認められる選手及び団体（チーム）に与えられる。本賞授賞者には、国家的表彰として内閣総理大臣杯（賞状及びトロフィー）と（公財）日本プロスポーツ協会会長杯（楯）、賞状及び賞金が授与される。

最高新人賞（1名）

当該年度において、もっとも貢献度の大きい業績を残した選手に与えられる。本賞授賞者には、楯、賞状及び賞金が授与される。

特別賞

当該年度において、貢献度の大きい成績を残した団体（チーム）、個人に与えられる。本賞授賞者には、楯、賞状及び賞金が授与される。

殊勲賞（3名）

日本プロスポーツ大賞に次ぐ優れた業績を称えるもので、大賞と同様に選手及び団体（チーム）に与えられる。本賞授賞者には（公財）日本プロスポーツ協会会長杯（楯）、賞状及び賞金が授与される。

功労賞（ダンスはペアで1名とする）

長年にわたり、プロスポーツの発展に貢献した、個人に与えられる。本賞授賞者には、楯、賞状及び賞金が授与される。

新人賞（ダンスはペアで1名とする）

当該年度において、新人として優れた業績を残した選手に与えられる。本賞授賞者には、楯、賞状及び賞金が授与される。

選考委員

- 朝日新聞社
- アール・エフ・ラジオ日本
- RKB 毎日放送
- 茨城新聞社
- エフエム東京
- FM NACK5
- 神奈川新聞社
- 河北新報社
- 共同通信社
- 神戸新聞社
- 埼玉新聞社
- 産業経済新聞社
- 産業経済新聞社(夕刊フジ)
- 産業経済新聞社(サンケイスポーツ)
- ジェイスポーツ
- 信濃毎日新聞
- 下野新聞社
- 時事通信社
- ジャパンタイムズ
- ジャパン・ニューズ
- 上毛新聞社
- スポーツニッポン新聞社
- 千葉テレビ放送
- 千葉日報社
- 中国新聞
- 中日新聞(東京新聞)
- 中日新聞(東京中日スポーツ)
- デイリースポーツ
- TBSテレビ
- TBSラジオ＆コミュニケーションズ
- テレビ朝日
- テレビ神奈川
- テレビ埼玉
- テレビ東京
- 東京メトロポリタンテレビジョン
- 東京スポーツ新聞社
- 道新スポーツ 東京支社
- 新潟日報社
- 西日本新聞社 東京支社
- 日刊スポーツ新聞社
- ニッポン放送
- 日本テレビ放送網
- 日本放送協会
- 日本経済新聞社
- フジテレビジョン
- ブルームバーグ・エル・ピー
- 文化放送
- 報知新聞社
- 北海道新聞
- 毎日新聞社
- 読売新聞社
- ラジオ NIKKEI
- WOWOW

以上53社（50音順・敬称略）

AWARD
THE JAPAN PROFESSIONAL SPORTS ASSOCIATION

日本プロスポーツ大賞 授与式

2024年 北口榛花（やり投）

2023年 侍ジャパン（プロ野球）

2022年 井上 尚弥（プロボクシング）

2018年 大谷 翔平（プロ野球）

2010年 白鵬 翔（大相撲）

大賞
歴代受賞者

2008/2009年 石川 遼（プロゴルフ）　写真：日刊スポーツ／アフロ

2013年 田中 将大（プロ野球）

1968年（昭和43年）
西城 正三（プロボクシング）

1969年（昭和44年）
読売ジャイアンツ（プロ野球）

1970年（昭和45年）
大鵬 幸喜（大相撲）

1971年（昭和46年）
長嶋 茂雄（プロ野球）

1972年（昭和47年）
松本 勝明（自転車競技）

1973年（昭和48年）
沢村　忠（キックボクシング）

1974年（昭和49年）
王　貞治（プロ野球）

1975年（昭和50年）
広島東洋カープ（プロ野球）

1976年（昭和51年）
王　貞治（プロ野球）

1977年（昭和52年）
王　貞治（プロ野球）

1978年（昭和53年）
ヤクルトスワローズ（プロ野球）

1979年（昭和54年）
具志堅 用高（プロボクシング）

1980年（昭和55年）
具志堅 用高（プロボクシング）

1981年（昭和56年）
中野 浩一（自転車競技）

1982年（昭和57年）
落合 博満（プロ野球）

1983年（昭和58年）
広岡 達朗（プロ野球）

1984年（昭和59年）
衣笠 祥雄（プロ野球）

1985年（昭和60年）
ランディ・バース（プロ野球）

1986年（昭和61年）
落合 博満（プロ野球）

1987年（昭和62年）
岡本 綾子（女子プロゴルフ）

1988年（昭和63年）
千代の富士 貢（大相撲）

1989年（平成元年）
千代の富士 貢（大相撲）

1990年（平成2年）
野茂 英雄（プロ野球）

1991年（平成3年）
辰吉 丈一郎（プロボクシング）

1992年（平成4年）
貴ノ花 光司（大相撲）

1993年（平成5年）
三浦 知良（サッカー）

1994年（平成6年）
イチロー（プロ野球）

1995年（平成7年）
イチロー（プロ野球）

1996年（平成8年）
尾崎 将司（男子プロゴルフ）

1997年（平成9年）
中田 英寿（サッカー）

1998年（平成10年）
佐々木 主浩（プロ野球）

1999年（平成11年）
松坂 大輔（プロ野球）

2000年（平成12年）
松井 秀喜（プロ野球）

2001年（平成13年）
イチロー（プロ野球）

2002年（平成14年）
2002FIFAワールドカップ日本選手団（サッカー）

2003年（平成15年）
松井 秀喜（プロ野球）

2004年（平成16年）
朝青龍 明徳（大相撲）

2005年（平成17年）
朝青龍 明徳（大相撲）

2006年（平成18年）
ワールド・ベースボール・クラシック日本代表（プロ野球）

2007年（平成19年）
浦和レッドダイヤモンズ（Jリーグ）

2008年（平成20年）
石川 遼（男子プロゴルフ）

2009年（平成21年）
石川 遼（男子プロゴルフ）

2010年（平成22年）
白鵬 翔（大相撲）

2011年（平成23年）
なでしこジャパン（サッカー）

2012年（平成24年）
阿部 慎之助（プロ野球）

2013年（平成25年）
田中 将大（プロ野球）

2014年（平成26年）
錦織 圭（プロテニス）

2015年（平成27年）
ラグビー日本代表（ラグビー）

2016年（平成28年）
大谷 翔平（プロ野球）

2017年（平成29年）
福岡ソフトバンクホークス（プロ野球）

2018年（平成30年）
大谷 翔平（プロ野球）

2022年（令和4年）
井上 尚弥（プロボクシング）

2023年（令和5年）
侍ジャパン（プロ野球）

2024年（令和6年）
北口 榛花（やり投）

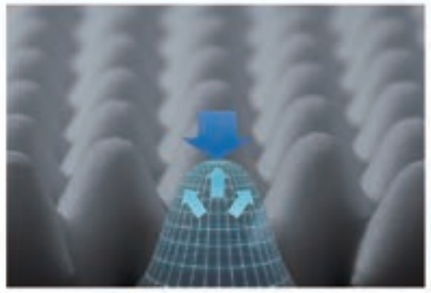
殊勲賞 歴代受賞者

1968年（昭和43年）		
玉の海 正夫（大相撲）	江夏　豊（プロ野球）	沢村　忠（キックボクシング）
1969年（昭和44年）		
金田 正一（プロ野球）	小林　弘（プロボクシング）	清国 忠雄（大相撲）
1970年（昭和45年）		
三浦 雄一郎（プロスキー）	小林　弘（プロボクシング）	中山 律子（ボウリング）
1971年（昭和46年）		
尾崎 将司（男子プロゴルフ）	大場 政夫（プロボクシング）	長池 徳二（プロ野球）
1972年（昭和47年）		
堀内 恒夫（プロ野球）	大場 政夫（プロボクシング）	坂口 征二（プロレス）
1973年（昭和48年）		
輪島 功一（プロボクシング）	阿部　道（自転車競技）	王　貞治（プロ野球）
1974年（昭和49年）		
柴田 国明（プロボクシング）	北の湖 敏満（大相撲）	尾崎 将司（男子プロゴルフ）
1975年（昭和50年）		
村上　隆（男子プロゴルフ）	沢松 和子（テニス）	ガッツ 石松（プロボクシング）
1976年（昭和51年）		
具志堅 用高（プロボクシング）	樋口 久子（女子プロゴルフ）	阪急ブレーブス（プロ野球）
1977年（昭和52年）		
樋口 久子（女子プロゴルフ）	具志堅 用高（プロボクシング）	阪急ブレーブス（プロ野球）
1978年（昭和53年）		
具志堅 用高（プロボクシング）	青木　功（男子プロゴルフ）	北の湖 敏満（大相撲）
1979年（昭和54年）		
青木　功（男子プロゴルフ）	中野 浩一（自転車競技）	三重ノ海 剛司（大相撲）
1980年（昭和55年）		
青木　功（男子プロゴルフ）	木田　勇（プロ野球）	中野 浩一（自転車競技）
1981年（昭和56年）		
千代の富士 貢（大相撲）	倉本 昌弘（男子プロゴルフ）	中島 常幸（男子プロゴルフ）
1982年（昭和57年）		
広岡 達朗（プロ野球）	中野 浩一（自転車競技）	岡本 綾子（女子プロゴルフ）
1983年（昭和58年）		
隆の里 俊英（大相撲）	中野 浩一（自転車競技）	中島 常幸（男子プロゴルフ）
1984年（昭和59年）		
岡本 綾子（女子プロゴルフ）	中野 浩一（自転車競技）	渡辺 二郎（プロボクシング）
1985年（昭和60年）		
千代の富士 貢（大相撲）	落合 博満（プロ野球）	中島 常幸（男子プロゴルフ）
1986年（昭和61年）		
中野 浩一（自転車競技）	浜田 剛史（プロボクシング）	千代の富士 貢（大相撲）
1987年（昭和62年）		
千代の富士 貢（大相撲）	森　祇晶（プロ野球）	衣笠 祥雄（プロ野球）
1988年（昭和63年）		
尾崎 将司（男子プロゴルフ）	門田 博光（プロ野球）	森　祇晶（プロ野球）
1989年（平成元年）		
藤田 元司（プロ野球）	武　豊（中央競馬）	尾崎 将司（男子プロゴルフ）
1990年（平成2年）		
森　祇晶（プロ野球）	千代の富士 貢（大相撲）	尾崎 将司（男子プロゴルフ）
1991年（平成3年）		
貴花田 光司（大相撲）	尾崎 直道（男子プロゴルフ）	中嶋　悟（F1）
1992年（平成4年）		
尾崎 将司（男子プロゴルフ）	三浦 知良（サッカー）	石井 丈裕（プロ野球）
1993年（平成5年）		
曙　太郎（大相撲）	古田 敦也（プロ野球）	ラモス 瑠偉（Jリーグ）
1994年（平成6年）		
貴乃花 光司（大相撲）	薬師寺 保栄（プロボクシング）	南井 克巳（中央競馬）
1995年（平成7年）		
尾崎 将司（男子プロゴルフ）	貴乃花 光司（大相撲）	伊達 公子（テニス）
1996年（平成8年）		
イチロー（プロ野球）	松井 秀喜（プロ野球）	十文字 貴信（自転車競技）
1997年（平成9年）		
辰吉 丈一郎（プロボクシング）	古田 敦也（プロ野球）	福嶋 晃子（女子プロゴルフ）
1998年（平成10年）		
中田 英寿（Jリーグ）	中山 雅史（Jリーグ）	イチロー（プロ野球）
1999年（平成11年）		
武蔵丸 光洋（大相撲）	上原 浩治（プロ野球）	中田 英寿（Jリーグ）
2000年（平成12年）		
佐々木 主浩（プロ野球）	中村 俊輔（Jリーグ）	畑山 隆則（プロボクシング）
2001年（平成13年）		
タフィー・ローズ（プロ野球）	伊沢 利光（男子プロゴルフ）	古田 敦也（プロ野球）
2002年（平成14年）		
松井 秀喜（プロ野球）	丸山 茂樹（男子プロゴルフ）	朝青龍 明徳（大相撲）
2003年（平成15年）		
阪神タイガース（プロ野球）	不動 裕理（女子プロゴルフ）	横浜F・マリノス（Jリーグ）
2004年（平成16年）		
松中 信彦（プロ野球）	浦和レッドダイヤモンズ（Jリーグ）	不動 裕理（女子プロゴルフ）
2005年（平成17年）		
井口 資仁（アメリカ大リーグ）	千葉ロッテマリーンズ（プロ野球）	ガンバ大阪（Jリーグ）
2006年（平成18年）		
北海道日本ハムファイターズ（プロ野球）	朝青龍 明徳（大相撲）	浦和レッドダイヤモンズ（Jリーグ）
2007年（平成19年）		
中日ドラゴンズ（プロ野球）	武　豊（中央競馬）	松坂 大輔（プロ野球）
2008年（平成20年）		
埼玉西武ライオンズ（プロ野球）	白鵬　翔（大相撲）	岩隈 久志（プロ野球）
2009年（平成21年）		
原　辰徳（プロ野球）	ワールド・ベースボール・クラシック日本代表（プロ野球）	白鵬　翔（大相撲）
2010年（平成22年）		
SAMURAI BLUE（サッカー日本代表）（サッカー）	千葉ロッテマリーンズ（プロ野球）	宮里　藍（女子プロゴルフ）
2011年（平成23年）		
福岡ソフトバンクホークス（プロ野球）	柏レイソル（Jリーグ）	白鵬　翔（大相撲）
2012年（平成24年）		
読売ジャイアンツ（プロ野球）	サンフレッチェ広島（Jリーグ）	なでしこジャパン（サッカー）
2013年（平成25年）		
東北楽天ゴールデンイーグルス（プロ野球）	山中 慎介（プロボクシング）	白鵬　翔（大相撲）
2014年（平成26年）		
白鵬　翔（大相撲）	福岡ソフトバンクホークス（プロ野球）	金子 千尋（プロ野球）
2015年（平成27年）		
福岡ソフトバンクホークス（プロ野球）		
2016年（平成28年）		
広島東洋カープ（プロ野球）	北海道日本ハムファイターズ（プロ野球）	
2017年（平成29年）		
村田 諒太（プロボクシング）	デニス・サファテ（プロ野球）	佐藤 琢磨（インディカー・シリーズ）
2018年（平成30年）		
井上 尚弥（プロボクシング）	サッカー日本代表（Jリーグ）	福岡ソフトバンクホークス（プロ野球）
2022年（令和4年）		
国枝 慎吾（プロ車いすテニス）	大谷 翔平（大リーグ）	村上 宗隆（プロ野球）
2023年（令和5年）		
北口 榛花（やり投）	大谷 翔平（大リーグ）	井上 尚弥（プロボクシング）
2024年（令和6年）		
小田 凱人（プロ車いすテニス）	井上 尚弥（プロボクシング）	阿部 一二三（柔道）

内閣総理大臣杯 大賞

ムアツとは

半世紀以上前に床ずれ防止マットレスとして開発されたムアツ。
医療の分野で高い評価を受けてきました。独自の凹凸構造は、
圧力をバランスよく分散・軽減することができるロケットの先端の
特殊な形状（テンション・シェル）をヒントに生まれました。面ではなく
点で支えることで理想的な寝姿勢を保ちます。



ムアツはこれからも進化を続け、快適な睡眠をサポートしていきます。

SHOWA NISHIKAWA

本社 東京都中央区日本橋浜町 1-4-15　http://www.showanishikawa.co.jp/
商品のお問い合わせ（お客様相談窓口） 0120-711-033　受付 10:00～17:00（土日・祝日・年末年始を除く）

殊勲賞・NHK賞

ユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」

私たちは、私たちのために、
スポーツをするんだ。

大好きなスポーツを、全力で楽しみたい。勝ちたいけど、負けて気づくこともある。つらい時は、休んだっていい。だって、スポーツは、自分自身のためにあるのだから。大好きなスポーツを、大好きな仲間といっしょに。

さあ、子どもたちのスポーツへ。

殊勲賞・特別賞・最高新人賞

JAPAN AIRLINES
JALはMLBのオフィシャルスポンサーです。
感動は、スポーツの先にある。
自分を信じて、仲間を信じて、どんなに厳しい練習も乗り越えてきた。
だから、勝利のよろこびは果てしなく大きい。
そして、それは未来への強い力になる。そう、全てのスポーツは、
一人一人の感動の物語につながっている。
JALは、スポーツを頑張る
人々を応援する翼で
あり続けたいと考えます。
JAL
明日の空へ、日本の翼

ごちゃごちゃ
うるせえ、
いいクルマ。

走りも、機能も、装備も、デザインも。
語り出したら止まらない。

OUTLANDER PHEV

MITSUBISHI MOTORS
Drive your Ambition

©Photo:P Executive Package（オプション装着車） ムーンストーングレーメタリック/ブラックマイカ（有料色）

スピードは控えめに。エコドライブで環境にやさしく。免荷もシートベルト。チャイルドシートも忘れずに。

○メーカーオプションを含みます。またグレードによっては装着できない装備があります。詳しくは営業スタッフにおたずねください。

○環境対応車普及促進税制に基づき、ご購入時の自動車重量税が免税となります。またグリーン化特例対象となるため、新車登録翌年度の自動車税が軽減されます。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

www.mitsubishi-motors.co.jp

アウトランダー PHEV WEBサイトはこちら

敢闘賞・功労賞・新人賞

スポーツ功労賞 / 文部科学大臣顕彰

スペシャル対談

北口榛花 × 藤波朱理

［やり投］　［女子レスリング］

●インタビュアー 松井 康真

第54回日本プロスポーツ大賞を受賞されました陸上競技やり投北口榛花さん、新人賞を受賞されました女子レスリング藤波朱理さんにお越しいただきました。よろしくお願いいたします。改めて今回のご受賞おめでとうございます。

●まずお二人の共通点といえば、誰が何と言っても2024年パリ五輪で見事金メダルを獲られました。おめでとうございました。お二人面識はありましたか？

北口　パリ五輪閉会式の時に一度お会いして、そこからありがたいことに色々な表彰をしていただき、その会場で顔を合わせることが何度かありまして、話せるようになりました（笑）。

●北口さんも今年はすごい年でしたね。

北口　はい（笑）自分がテレビに映っていることが自分自身でも信じられないぐらい、本当に同じ人なのかなってびっくりしています。

●つまり、質問を変えると、パリ五輪の閉会式の前までは、もちろんこういうすごい選手がお互いにいることは認識はしていたものの、挨拶もする機会がなかったということですね、競技も違いますし。

北口　そうですね。なかなか会えないですね。

●そうですよね、世界陸上に藤波選手は出ませんし、世界選手権のレスリングには北口さんは応援に行くしかないですからね。ということは、オリンピックで初めてお会いしたということですね。藤波さん、北口選手にはどのような印象を持っていましたか？

藤波　北口選手は本当に画面で見ていてもわかる通り、明るくて元気で、本当に強い方だと思っていました。

●北口さんは藤波選手のことをどう思っていますか？

北口　私は藤波選手が何連勝中というのをずっとニュースで取り上げられていて、すごく強いんだなというのと同時に、勝ち続けられるということのすごさ、しかも相手がいて研究もされている中で勝ち続けられるというのは、本当にすごい選手だなって思いました。

●パリ五輪では、日本選手の金メダルラッシュと、女性アスリートの活躍が素晴らしかったですよね。お二人とも圧倒的なコンディションで金メダルを獲ったと思われている方がいらっしゃるかもしれませんが、実はそんなことはなかったとお聞きしましたがいかがですか？

北口　そうですね。昨シーズン全体を通してあんまり体調は良くなかったです。このオリンピックイヤーという、アスリートとして本当に大事にしなければいけない年にそのようなコンディションになってしまったのは、自分ではすごくショックでもあり、でもそれでも勝たなきゃいけないと思って昨シーズンは過ごしていました。

●オリンピック前の世界選手権でも金メダルを獲りましたから、追われる立場の中体調が良くなくて、このままではパリでは金メダルを獲れないと思っていらっしゃったんですよね？

北口　そうですね、前回の東京五輪で他の選手が四年に一度の舞台に対し、すごい思いを持って、体調を整えてきているということを一緒に戦ってわかったので、そこに万全じゃない私が勝てるわけがないなっていうことは思いました。
でもパリ五輪の予選で、一本目で通過できたことがすごくほっとましたが、やはり他の選手がこのオリンピックに合わせてきているっていうことを実感した予選でもあったので、やはり自分がいまいち調子が上がり切っていないというのはすごく感じました。

●一方、藤波選手はオリンピックを迎え

藤波 朱理（女子レスリング）

1988年ソウル五輪代表候補だった父と兄の影響で4歳でレスリングを始める。2023年6月には吉田沙保里がもっていた119連勝を超える122連勝となり、世界選手権の代表に内定。その世界選手権準々決勝では、世界ランキング1位であるエクアドルのルシアヤミレト・ジェペスグスマンを相手に2019年2月から記録していた連続無失点記録は途切れるものの、フォール勝ち。その勢いで世界選手権2度目の優勝を飾り、パリオリンピック代表に内定。
2024年に行われたパリオリンピックでは、初出場で女子フリースタイル53kgで金メダルを獲得。中学時代より公式戦連勝記録を積み重ね、オリンピックの決勝の勝利により公式戦連勝記録は137連勝を達成。同年11月に紫綬褒章受章。現在139連勝まで伸ばし、2025年は階級を57kg級に変更する。

るまで連勝記録を133まで伸ばしていました。もう約7年間負けなしで。オリンピックの金メダルという結果だけをみれば順風満帆に来たと見えてしまうのですが、実は去年の3月に手術なさっているんですよね？

藤波 はい。昨年3月半ば、練習中に肘の脱臼をしてしまい、即手術をし、オリンピックもギリギリで挑みました。

●競技は違いますが、北口選手いかがですか？怪我をして手術をして、あとはオリンピックが本番だったというのは。

北口 私は想像できないですね。それで勝てるのが本当にすごいなって思いますし、怪我をしてからこの実戦でやるのも、私の場合は結構怖さがあって、怖くて投げられないとか、そういうのもあると思うのに、実戦復帰してすぐ勝負できるというのがすごいと思います。しかも身近な選手だけではなくて、世界の選手を相手にそういうことができるのはすごいなって思います。

●今回のパリ五輪で北口選手の一番印象に残っているのはどのシーンでしょうか。私は金メダル決定後に鳴らした鐘の場面でした。金メダルを獲得した選手のみが鳴らすことを許される、それは知っていましたか？

北口 はい、知っていました。私の競技前に色んな選手が、その時の思いのままに鳴らしている姿を見て、自分もやりたいなって思っていました。ただ終わってから他の選手の映像を観て、もう少しちゃんと鳴らせばよかったなって（笑）。

●藤波選手はいかがでしょうか。あるオリンピアンの方が今回のオリンピックで一番安心して観ていられた金メダリストだという話もされていたのですが、藤波選手の一番印象的なシーンはどこでしたでしょうか。

藤波 私はコーチである父に飛びついたところですかね。

●私もそう思ったのですが、私が一番印象的だったのは、ご自身の金メダル獲得の瞬間ではなく、76キロ級で出場した鏡 優翔選手が金メダルを獲得した時に号泣していましたよね？

藤波 はい、2つ上の先輩なのですが、ずっと一緒に、同じ目標に向かって頑張ってきた先輩です。自分が優勝した時、涙は出なかったのですが、優翔さんが優勝した瞬間は勝手に涙が出てきました。

●北口選手、本当にいつも明るいのですが、お母さんの教えと聞きましたが。

北口 母も私も心配性なところがあり、常に明るくっていう感じではないのですが、辛いことが多い中で、辛い顔をしているとどんどん気持ちが沈んでいってしまうので、きつい練習の中で少しでも楽しさを見い出して、自分で実践するように心掛けています。

●藤浪選手は連勝の数も去ることながら、重要なのは今年階級を上げられるとお聞きしました。

藤波 今までずっと53キロ級でやってきたんですが、次からはもう1つ上の57キロ級で挑戦することに決めました。

●53キロだと減量がきつかったんですか？

藤波 そうですね。それもありますし、やっぱり自分の身長からしてもやっぱり57キロ級がベストな階級、自分の一番いいパフォーマンスができる階級だと思ったので、階級を上げることはパリ五輪の前から決めていました。

写真：松尾 / アフロスポーツ

北口 榛花（やり投）

2018年11月、フィンランドでの国際講習会でチェコのジュニアコーチをしていたデイビッド・セケラックの指導方法に興味を持ち、単身チェコに渡って指導を受ける。2019年5月の木南道孝記念陸上競技大会では、64m36cmの日本新記録を樹立し優勝。2020年日本航空入社。2024年に開催されたパリオリンピックの女子陸上やり投決勝では投てき1回目から65m80cmを記録。この記録により、女子フィールド種目では日本選手でオリンピック初のメダルとなる金メダルを獲得。オリンピックの陸上競技においての日本人による金メダル獲得は、2004年アテネオリンピックの室伏広治（男子ハンマー投げ）と野口みずき（女子マラソン）以来5大会ぶり、マラソン以外での陸上女子種目では史上初。金メダル獲得後の記者会見での「ひとつ心残りがあるとすれば名言が残せなかったこと」という言葉がクローズアップされ、「名言が残せなかった」が2024年の新語・流行語大賞にノミネート、トップテンに選出された。

●北口選手、ブダペストの世界選手権で金メダルを獲り、パリ五輪でも金メダルを獲りましたが、今年日本で世界陸上が開催されます。国立競技場での金メダルを日本の皆さまはまだ見ていないんですよね。

北口 そうですね、本当に生きている中で、私が現役を続けている間では最後だと思うので、大事にしっかり臨めたらいいなと思います。

お時間が来ました。お二人ともありがとうございました。そしてご受賞おめでとうございます。今年のご活躍も期待しております。

SAISON

SINCE 2001

これは永久に変わらない、
私たちクレディセゾンの応援する理由。

「サッカー日本代表の未来を切り拓きたい」
「世界へと羽ばたく若者たちをリードしたい」

2001年から20年以上、
挑戦する姿を見つめてきた私たちは改めて思います。

夢に向かって一緒に応援する。
心がひとつになる、奇跡のような時間を共有する。
スポーツは人をつなぎ、平和な世界につながるのだと
心から信じています。

これからまた試合がはじまる。

一緒に歴史を、つくりにいこう。

クレディセゾンは、サッカー日本代表のメジャーパートナーです。
©JFA/アジア2次予選 対朝鮮民主主義人民共和国代表 先発メンバー(2024.3.21)

クレディセゾンサッカー日本代表応援サイト

早田ひな

独占インタビュー

誰も予想していなかった一回戦敗退

昨夏のパリ２０２４オリンピック競技大会、卓球女子日本代表のエースとしてシングルス、団体、そして前回東京大会で日本が金メダルを獲得している混合ダブルス、この３種目で出場した早田ひな選手。
２０１９年から張本智和選手とペアを組み国際大会でも幾度も優勝という成績を残してきた。今大会も第２シードとしてメダルが確実と言われていたが、そこに待っていたのはまさかの結末だった。

第１回戦で朝鮮選手と対戦を控えていた当時、どのような心情でしたか。また朝鮮選手との対戦でどういった試合運びを予想していたのかについてお聞かせください。

強いペアだということは分かっていたので準備はしていました。簡単に勝てるということは絶対にないと思っていたので、技術の面でもメンタルの面でも体力的なことを考えても色々なことに集中しながら試合を行わないと勝てないと思っていました。

朝鮮の選手と対戦した率直なご感想をお聞かせください。

とにかく強かったと思います。私達がどれだけ戦術を変えても即座に対応できる力があり、全ての技術において相手のペアの方が私たちの力を上回っていたと思います。

朝鮮選手の技術面での強みをどのように感じられましたか。

競った時の身体の強さや技術力の高さ、ボールの安定性などこちらから攻めているように見えても最後は私たちの動きを見られていました。コースが分かっていてもそれを上回ってくる回転量やパワーなどがありプレッシャーを感じるものがありました。

朝鮮選手は、本紙平壌支局のインタビューで、日本選手との対戦に十分に備えてきたと語っていました。早田選手は、朝鮮選手との対戦を念頭に、準備されたことはありましたでしょうか。

お互い対戦したことないのでイメージでしか対策が出来ませんでした。私たちは対策をしてるつもりになっていただけで本当の対策は充分に出来ていなかったと思っています。
想像以上に相手の精度の高さに怯んでしまった部分もありメンタル的な部分も含めて技術力の差で負けてしまったと思います。

朝鮮の選手に対する印象、試合で印象に残っているシーンがあればお聞かせください。

どんなに劣勢な展開でも最後ボールが床につくまで諦めない心、どんなに厳しくてもボールに喰らいついていくメンタルが印象に残ってます。
だからこそ私たちもそんな選手に勝てるように全ての技術を高めていかないといけないと思いますし、次は越えたいと思って頑張ることができる存在でもあります。

５月にカタール・ドーハで行われるＩＴＴＦ世界卓球選手権大会ファイナルズに向けた意気込みを教えてください。また、朝鮮選手たちも出場しますので、もし対戦が叶うとすれば、どのような思いで試合に臨みたいですか。

パリオリンピックで発症した左腕の怪我も少しずつ回復はしていますが、まだまだ出来ないことが沢山あります。
ですが、その中でも世界選手権の切符を自分で掴み取ったからには、この大会を絶対に無駄なものにはしたくないと思っています。
どの選手と対戦することになっても、自分の力を１２０％出すことに集中したいと思いますし、朝鮮の選手と対戦する機会があればベストを尽くして頑張りたいと思います!!

写真：長田洋平 / アフロスポーツ

早田ひな

2000年7月7日生まれ　福岡県出身

地元の名門石田卓球クラブで練習していた姉の影響を受けて、4歳より卓球を始める。普段は右利きだが、卓球では左打ち。
2024年8月のパリオリンピックでは、団体戦決勝のダブルスで張本美和とペアを組み、銀メダルを獲得。シングルスでは準々決勝で左前腕を負傷し、準決勝からは痛み止めとテーピングを施してのプレーとなったが、見事銅メダルを獲得した。現在のITTF卓球世界女子総合ランキングは、日本人最高の5位。

写真左から キム・ヒョクポン監督、キム・グムヨン選手、リ・ジョンシク選手

「日本戦の勝利が追い風に」
―パリ五輪卓球混合ダブルスを振り返って―

朝鮮代表　キム・グムヨン選手
リ・ジョンシク選手
キム・ヒョクポン監督

昨年のパリ五輪卓球混合ダブルス一回戦で、優勝候補の張本智和／早田ひなペアを破ったことで注目を集めた朝鮮のキム・グムヨン、リ・ジョンシクペア。国際大会に初出場した朝鮮の新ペアにとって日本戦での勝利は、決勝まで続くその後の試合を勢いづけるものになったという。キム・リペア、キム・ヒョクポン監督と共に試合を振り返った。

日本のペアとの対戦にどのように備えましたか？

リ・ジョンシク：日本の選手たちの球質は、強さ以上にテンポが早いのが特徴だと思います。

また、多彩な試合運びも強みです。攻守の切り替えが素早く、ボールの長短の使い分けも優れています。選手には必ずプレーの癖があるものなので、選手たちの強み、特徴をよく研究したうえで、それに対応できる戦術を立てました。

実際に対戦して感じたことは？

キム・グムヨン：日本人選手とは一度も対戦したことがなかったので、試合の動画を見ながら研究しました。実際に対戦してみると、戦術が多様で、開始直後から試合運びにさまざまな変化が見られました。隙がなく、一点をもぎとるのが非常に難しかったです。とくに早田ひな選手は、試合終盤で大胆なプレーを見せてきました。私も日本の卓球の特徴はテンポの早さだと思います。私にとってはとてもプレーしやすいテンポで、プレッシャーはとくに感じませんでした。緊張せずに試合に臨めたと思います。

日本の選手たちの強みは？

キム・ヒョクポン：日本の選手たちは、さまざまな場面に対応できる攻守技術を完璧に備えています。メンタルも優れており、失点したりミスしたりしても感情を前に出すことがなく、最後まで諦めずに粘り強く戦うという印象です。昨年10月のアジア選手権でも日本人選手と対戦したが、日本の選手たちは全般的に技術が高いです。世界的な強豪だと言えるでしょう。その選手たちを相手に、周囲の予想に反して無名の朝鮮ペアが勝ったので、本人たちも五輪でメダルを十分に狙えるという自信がつきました。その勢いに乗って決勝まで勝ち進めたと思います。

写真：ロイター / アフロ

5月にカタールで開かれる世界選手権への意気込みを聞かせてください

キム・グムヨン：五輪に出場した際は、スポーツ選手にとって最高の舞台である五輪に出場し、決勝に上がっただけでも満足していた自分がいました。最善を尽くしたつもりだが、今となってはチャンスをものにできなかったことが悔やまれます。世界選手権では混合ダブルスで必ず金メダルを取りたいです。元来の戦術を磨きつつ、各国の選手たちの戦術を研究し、それに対応できるよう準備を進めています。

リ・ジョンシク：パリ五輪ではあと一歩のところで金メダルを逃し、悔しい思いをしました。次からは各国の出場選手たちも、われわれの戦術を研究してくるはずです。それを十分に考慮し、対応できるよう戦術を練っています。

【平壌発＝金淑美】

オリンピック憲章「オリンピズムの根本原則」に沿って

あらゆる分野の差別を禁じたオリンピック憲章の精神を尊重して開催されたパリ大会において、日朝両国の選手が勝敗に関わらず、熱く握手を交し、お互いを讃え合う姿に、観客は感動し惜しまない拍手で労いました。

一人の選手のプレーが世界中を熱狂させ、魅了する力を持つ、それがスポーツです。スポーツに国境はありません。目指す先は「勝利」であり「頂点」です。そのために、勝ち負けという結果は出ますが、互いに深い絆で結ばれます。

今回お聞きしたインタビューのように、国を超えたスポーツの素晴らしさをこれからも本誌でお伝えしていきます。

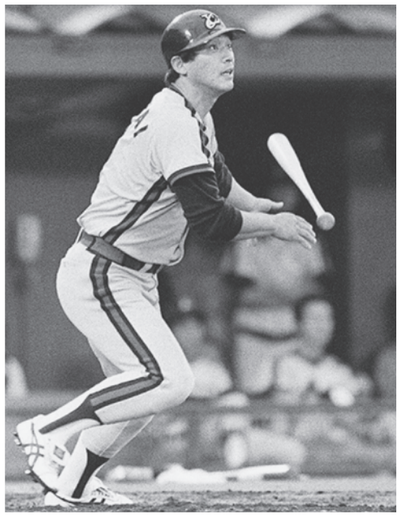
歴代
大賞受賞者
History of Japan Pro Sports Awards

日本プロスポーツ大賞の歴史

Part 4

1982年（昭和57年） ▶ 1985年（昭和60年）

日本プロスポーツ大賞は、我が国のプロスポーツ界の発展と振興に寄与するために1968年（昭和43年）に第一回の表彰が行われました。
それから50年以上にわたって、プロスポーツ界で活躍する全ての選手及びチームの中から選ばれた大賞受賞者に内閣総理大臣杯を贈り、その功績を称えてきました。
今回は第十五回の1982年から第十八回の1985年までの大賞と殊勲賞の受賞者をご紹介します。
主な社会の出来事と合わせて、熱狂と感動を思い出してください。



写真提供：共同通信社

第15回 1982年（昭和57年）

大賞

落合 博満（プロ野球）

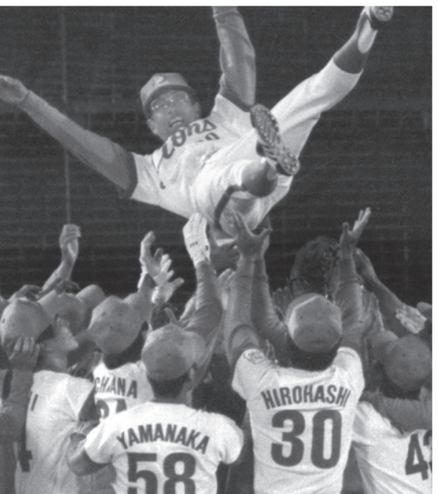
1978年、ロッテ・オリオンズ（当時）からドラフト3位指名を受け入団。1982年、チームはBクラスながら、NPB史上最年少記録28歳で三冠王を獲得。最優秀選手にも選ばれた。

殊勲賞

広岡 達朗（プロ野球）
中野 浩一（自転車競技）
岡本 綾子（女子プロゴルフ）

1982年の主な出来事

2月：岡本綾子がゴルフのアメリカLPGAツアーで初優勝
3月：増田明美が中日ロードレースで20kmを1時間6分55秒の世界最高記録を樹立
7月：渡嘉敷勝男が世界ジュニアフライ級王座を防衛
9月：大相撲 北の湖が史上1位となる通算873勝達成



第16回 1983年（昭和58年）

大賞 **広岡 達朗**（プロ野球）

1981年から西武ライオンズの監督に就任。
翌1982年に19年ぶりのパ・リーグ優勝を果たすだけでなく、24年ぶりの日本一も達成。勢いそのままに1983年も独走でパ・リーグを制すと、日本シリーズでは古巣巨人を4勝3敗で下し、見事連覇を果たした。

殊勲賞

隆の里 俊英（大相撲）
中野 浩一（自転車競技）
中島 常幸（男子プロゴルフ）

1983年の主な出来事

2月：ゴルフの青木功が、ハワイアンオープンで優勝し、日本人男性初の全米ツアー優勝
2月：渡辺二郎が世界ジュニアバンタム級王座防衛
6月：プロ野球の福本豊が盗塁939の世界新記録を樹立

写真提供：共同通信社

スポーツと私

公益財団法人 日本プロスポーツ協会
理事 **中林美恵子**

情報番組のコメンテーターとして様々なメディアに出演しており、当協会の理事も務める早稲田大学教授の中林美恵子先生ですが、1993年から約10年間、米連邦議会上院予算委員会の連邦公務員として米国に勤務していた際に起こったエピソードや、今年1月の日本プロスポーツ大賞授与式典での感想をお聞きしました。

突然のオリンピック大会組織委員会からかかってきた電話

アメリカ上院予算委員会の補佐官として勤務していた1996年6月、オフィスに突然アトランタオリンピック大会組織委員会から電話が。その内容に私は驚きました。「7月19日に開幕するオリンピックの聖火ランナーをやってくれないか？」。

本番は1週間後、でも2度とない機会に承諾

経緯を尋ねると「次の1998年長野オリンピックに向けて日米の架け橋になってほしい」とのこと。連絡先は日本大使館に問い合わせたとのことでした。本番は何と1週間後。2度あるかわからないこの機会にその場で「Yes」と返答しました。予算委員会の同僚に話すと、みんな喜んでくれとても励みになりました。

これが本当のぶっつけ本番

迎えた本番当日。アメリカらしいと言えばそうなのですが、リハーサルが全くないまま本番を迎えました（笑）。ワシントンDCの中心部デュポンサークルから日本大使館まで走りました。液体ガスが入ったトーチが重く、持つ手を変えながら走った時間は15分ほどでしたが、とても長く感じました。予算委員会の仲間たちが総出で応援に来てくれて、本当に力になりました。

無事走り終え、次のランナーへ聖火の火を渡す前に日本大使館旧公邸の中庭で大使や同僚と記念撮影をしていました。事前に「聖火の火は必ず公道に出ようとすると、係員から呼び止められ「次の聖火ランナーが目の前にいるから、ここで点火して」と。どうやら聖火を持って逃げるのでは、と思われたようでとても恥ずかしかったことを今でも憶えています。

突然入った連絡からの怒涛の1週間でしたが、ホワイトハウスに招待していただいたり、日米の架け橋の一翼を担えたと信じ、とても貴重な経験となりました。

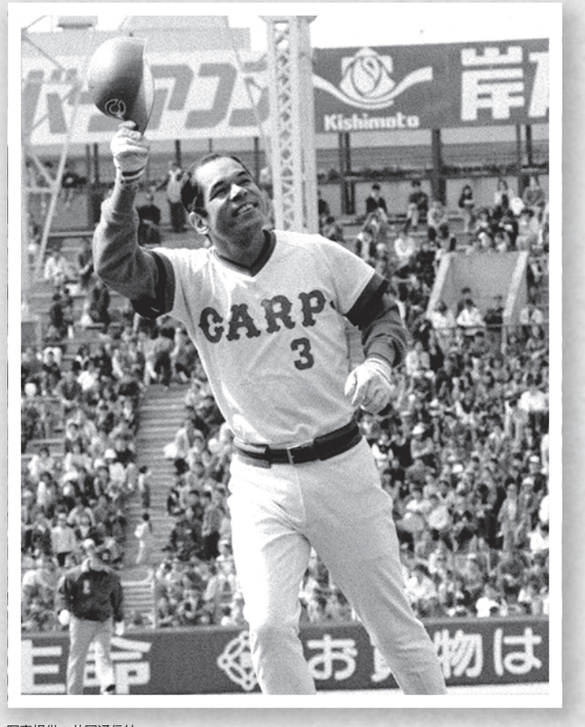
第54回日本プロスポーツ大賞授与式典

今回の式典では特別賞の授与者として出席させていただきましたが、このような式典でない限りお会いできない方々ばかりで、こちらも本当に貴重な時間となりました。同時にスポーツの持つパワーを改めて感じ、今年も多くの日本人選手が世界で活躍できることを期待しております。

今後も、アスリートの皆さまと当協会が、スポーツの魅力・感動を発信する架け橋となれますよう邁進してまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

中林 美恵子

早稲田大学教授。大阪大学博士（国際公共政策）、米ワシントン州立大学修士（政治学）。1992年米国永住権取得後、連邦議会上院予算委員会に正規採用され、在米14年を経て2002年に帰国。大学の教職や政府審議員、衆院議員（2009年～2012年）などを経て、現職。米マンスフィールド財団名誉フェロー。
グローバルビジネス学会・会長。
Waseda USA理事。



写真提供：共同通信社

第17回 1984年（昭和59年）

大賞

衣笠 祥雄（プロ野球）

1965年広島カープに入団。1987年の現役引退まで広島ひと筋。37歳で迎えた1984年はコーチ兼任でプレーし、自身初の打点王を獲得。この年、チームはリーグ優勝、日本一にも輝き、最優秀選手に選出された。

殊勲賞

岡本 綾子（女子プロゴルフ）
中野 浩一（自転車競技）
渡辺 二郎（プロボクシング）

1984年の主な出来事

7月：陸上カール・ルイスがロス五輪にて4冠達成
8月：サッカー釜本邦茂が引退
9月：プロ野球、阪急ブレーブスのブーマーが外国人初の三冠王獲得
10月：柔道山下泰裕が国民栄誉賞受賞

第18回 1985年（昭和60年）

大賞

ランディ・バース（プロ野球）

1983年に阪神タイガースに入団したバースは1985年に三冠を達成し、チームのリーグ優勝に貢献。セ・パ2リーグ制になってから初の日本一にもなり、シーズン、日本シリーズ共にMVPを獲得した。
巨人戦で槙原寛己投手から放ったバース・掛布・岡田のバックスクリーン3連発はこの年に生まれた。

殊勲賞

千代の富士 貢（大相撲）
落合 博満（プロ野球）
中島 常幸（男子プロゴルフ）

1985年の主な出来事

1月：大相撲北の湖引退
4月：天皇賞（春）でシンボリルドルフが優勝し、史上2頭目の5冠馬に輝く
6月：柔道山下泰裕引退
8月：全米女子アマチュアゴルフ選手権で服部道子が日本人初優勝
10月：世界耐久選手権日本大会で、星野一義が日本人ドライバーとして初の国際自動車連盟世界選手権で優勝

写真提供：共同通信社

あすへの話題

警視総監の時、読売巨人軍から東京ドームでの始球式を頼まれた。ノーバウンドで投げるくらいならできるだろうと引き受けたが、野球経験者の秘書官が「ノーバウンドで投げるなんて誰でもできます。ここは変化球でストライクを取ってください」と言う。「そうか。ではカーブで行くか」と答えると、「カーブなんて誰でも投げます。ナックルあたりどうですか」。「バカ言うな」といった具合でドタバタしていたが、開幕直前に東日本大震災が発生し、この企画が中止になってしまった。

総監退官後、巨人軍が始球式が出来なかった代わりにと、妻ともども東京ドームに招待してくれた。第88代警視総監にちなみ、背番号88にＩＫＥＤＡと書いたユニフォームをプレゼントしてくれたが、これはもともとは始球式用に作ってくれたようだ。このユニフォームを着て悦に入っていると、試合直前にもかかわらず、原監督が顔を出してくれた。そして、にこやかに「ＨＡＲＡと書いていない背番号88は初めて見ました」とあいさついただいたが、私の横では妻が固まっていた。妻は、原監督と同学年とかで、いつもテレビの前では「原君」と言っていたから、てっきり「やあ原君、お元気」とでも言うのかと思いきや、蚊の鳴くような声で「はじめまして」と言う。監督から「警視総監の奥さんというのは大変なご苦労だったでしょう」とねぎらわれても「いえ」と言うのが精一杯。目は完全にハート形になっていた。

女性は、いくつになっても憧れの人に会うと少女に戻ってしまうらしい。もっとも、これは男性も同じか。

（２０１８年10月３日　日本経済新聞　夕刊掲載）

池田克彦 いけだかつひこ

第88代警視総監
初代原子力規制庁長官

（プロフィール）
1953年神戸市生まれ。
京都大学法学部卒業。76年警察庁入庁。
岩手県警本部長、埼玉県警本部長、
警察庁警備局長など歴任。
元警視総監、元原子力規制庁長官。
公益財団法人日本道路交通情報センター　前理事長
公益財団法人日本プロスポーツ協会 評議員